

大会名 Competition	第47回全国高等学校バスケットボール 選抜優勝大会秋田県予選会男子決勝
No. M-2	Year Month Day Time 2016年 10月 30日 14:00
場所 Place	大館市樹海体育館



秋田県高等学校体育連盟  
バスケットボール専門部

主審:Referee 佐藤 匠 (秋田)  
副審:1stUmpire 小川 裕之 (秋田)  
副審:2ndUmpire 水木 順仁 (秋田)  
テーブルオフィシャル:Table officials  
大館国際情報学院高校男子

チームA <b>平成</b> 100 ○	<table border="1"> <tr><td>27 1st 18</td></tr> <tr><td>26 2nd 22</td></tr> <tr><td>25 3rd 14</td></tr> <tr><td>22 4th 15</td></tr> <tr><td>OT</td></tr> </table>	27 1st 18	26 2nd 22	25 3rd 14	22 4th 15	OT	チームB <b>秋田工</b> 69 ●
27 1st 18							
26 2nd 22							
25 3rd 14							
22 4th 15							
OT							

No.	PI-in	選手氏名	Name of Players	PTS	3P	2P	FT	F	No.	PI-in	選手氏名	Name of Players	PTS	3P	2P	FT	F
4	×	三浦 杏太	CAP	9	1	3	0	2	4	×	八柳 優星	CAP	14	2	4	0	1
5	×	藤原 貴史		36	4	11	2	2	5	×	柴田 滉太郎		10	2	2	0	4
6	×	大日向 裕也		17	0	8	1	0	6	／	三浦 夢城		0	0	0	0	2
7	×	岸 重人		13	0	6	1	2	7	×	広川 汰輝		7	1	2	0	3
8	／	内藤 達也		7	0	3	1	0	8	×	宮野 良		16	0	8	0	1
9	×	遠藤 里玖		16	0	8	0	2	9	×	片村 俊介		6	0	2	2	0
10	／	宮崎 恭輔		2	0	1	0	1	10	／	村井 駿		5	1	1	0	0
11		石井 淳		-	-	-	-	-	11	／	新保 優弥		9	2	1	1	1
12		栗田 瞭		-	-	-	-	-	12		伊藤 亮太		-	-	-	-	-
13		樋渡 竜		-	-	-	-	-	13		小林 赳大		-	-	-	-	-
14		高橋 凜		-	-	-	-	-	14		真田 葉瑠		-	-	-	-	-
15		佐々木 健太郎		-	-	-	-	-	15		照井 海月		-	-	-	-	-
16		高橋 颯		-	-	-	-	-	16		菊地 奏杜		-	-	-	-	-
17		小野 大和		-	-	-	-	-	17	／	長谷部 佑斗		2	0	1	0	0
18		鍵野目 颯斗		-	-	-	-	-	18	／	田口 竜誓		0	0	0	0	1
19		赤川 弥斗		-	-	-	-	-	19		小松 亮人		-	-	-	-	-
20		宮川 郷		-	-	-	-	-	20		山野 光太		-	-	-	-	-
21		工藤 駿介		-	-	-	-	-	21		進藤 大輝		-	-	-	-	-
コーチ		佐々木 信吾							コーチ		片桐 博美						
Aコーチ		畑 澤 哲平							Aコーチ		伊藤 俊介						
合計				100	5	40	5	9	合計				69	8	21	3	13

※×:スター /:交代選手 PTS:ポイント 3P:3P\* インドシュート 2P:2P\* インドシュート FT:フリースロー F:ファウル

男子決勝は、ここまで圧倒的な強さを見せてきた第1シードの平成と準決勝で能代工を倒し勢いに乗る秋田工のカード。どちらも勝てば初優勝となる顔合わせとなった。

開始早々平成#5藤原がリバウンドシュートを決めるが、秋田工も#9片村がフリースローをきっちり2本沈める。その後はリバウンドを支配した平成が連続して加点し、#7岸のアリウープシュートが決まったところでたまたま秋田工タイムアウト。その後は秋田工#8宮野のジャンプシュートや#4八柳の連続3Pで得点差を縮める。平成は残り2分を切ってから#8内藤の6連続得点で突き放し第1ピリオド27-18の平成リードで終了。

第2ピリオド、秋田工#5柴田のジャンプシュートや3P、#9片村のリバウンドシュートで得点を重ねるも平成は#5藤原がジャンプシュート、ドライブ、3Pと躍動する。残り4分51秒で秋田工2回目のタイムアウト。その後は両チームとも点の取り合いとなる。終了間際、平成#6大日向のフリースロー1本が決まり、53-40と平成リードで前半終了。

第3ピリオド、平成#6大日向、#5藤原の連続シュートで始まる。秋田工も代わった#10村井が思い切りのいいドライブを見せる。しかし、平成は#7岸のリバウンドシュートや#6大日向のジャンプシュート、#5藤原のドライブとバランス良く加点する。秋田工も代わった#11新保のドライブからのバスケットカウントで流れをつかみかけるが、平成もすかさず#7岸が速攻からバスケットカウントを決め、流れを渡さない。平成#6大日向の力強いゴール下のシュートが決まり78-54で第3ピリオド終了。

第4ピリオドも平成#6大日向から#9遠藤への合わせのプレーや#5藤原の3Pで加点する。一方の秋田工も果敢にゴールを狙い、#11新保の2本の3Pなどで加点。しかし、その後は平成が立て続けに得点し、最後は#5藤原のブザービーターが決まり100-69で試合終了。平成が初優勝を飾った。

